

# 技術情報

J A全農やまぐち  
TAC・営農推進課(083-988-0681)  
平成25年8月13日 発行  
第 177号

## イネいもち病の防除対策

8月12日付けで病害虫防除所から技術資料が発表され、いもち病の発生が「やや多」の予想となっています。

つきましては、穂いもち防除が的確に実施されますよう、下記及び「発生予察技術資料第4号」を参考に、ご指導をお願いします。

### 記

#### 1 今後の予想

- (1) 対象地域 県内全域
- (2) 発生量 やや多

#### 2 防除対策

- (1) 防除時期
  - ・ 粉剤及び液剤による防除適期は穂ばらみ後期と穂ぞろい期の2回である。
  - ・ 粒剤は出穂前に施用する。
- (2) 防除薬剤  
別表のとおり

#### 3 留意事項

- (1) 本年は葉いもちの発生に好適な条件が早い時期から広範囲に出現し、葉いもちの発生が多いう状況となっています。
- (2) 出穂時期に曇雨天や夜露が乾きにくい等感染に好適な状況があれば、穂いもちが発生する可能性があります。特に葉いもちの発生が多い圃場や上位葉に発生している圃場では穂いもちが多発生する危険性があるので、葉いもちの発生状況を確認し、的確に防除を実施してください。

主要殺菌剤(平成25年農作物病害虫・雑草防除指導基準)

粉剤

系統	コ殺菌剤	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
メニン 生合成阻 害	U14 16.1	ブラシン粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	フェリムゾン2回以内,フサライド3回以内	治療的、予防的効果 を持つが発病初期の 早期散布を主体とする。
メニン生合 成阻害,-	16.1 U14	ノンプラス粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱へ の処理は1回以内、本田では3回以内)、 フェリムゾンは2回以内	-
-,-	6 M7	フジワンベフラン 粉剤DL(普)(B,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	イソプロチオラン3回以内(移植前は1回 以内、本田では2回以内)、イミノクタジン3 回以内	-

液剤

系統	コ殺菌剤	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
抗生物質, メニン 生合成阻 害	26 U14 16.1	ブラシンバリダフロ アブル(普)(A,A,A)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	バリダマイシン6回以内(但し、育苗箱灌 注は1回以内、本田では5回以内)、フェリム ゾン2回以内,フサライド3回以内	-
メニン生合 成阻害	16.1	ビームゾル(劇)(A)	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱へ の処理は1回以内、本田では3回以内)	青なし、野菜類の幼苗 にかからないように注 意する。
メニン生合 成阻害	16.1	ビームエイトゾル (普)(A)	1000倍、60~150 リットル/10a					
メニン生合 成阻害,-	16.1 U14	ノンプラスフロアブ ル(普)(A,A)	1000倍、60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	トリシクラゾール4回以内(但し、育苗箱へ の処理は1回以内、本田では3回以内)、 フェリムゾン2回以内	-
メニン生合 成阻害,酸 アミド	16.1 7	モンカットラプサイ ド20フロアブル (普)(A,B)	1000~1500倍,60 ~150リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	フサライド3回以内,フルトラニル3回以内 (但し、小包装投入は1回以内)	-
メニン 生合成阻 害	U14 16.1	ブラシンフロアブ ル(普)(A,A)	1000倍,60~150 リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	フェリムゾン2回以内,フサライド3回以内	-
ベンゾイミ ダゾール	1	トップジンMゾル (普)(A)	1000倍、60~150リ ットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	チオファネートメチル 3回以内(但し、種子への 処理は1回以内)	-
-	6	フジワン乳剤 (普)(B)	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内(但し、移植前は1回以内、本田 では2回以内)	-

粒剤

系統	コ殺菌剤	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
抵抗性誘 導	P	ルーチン粒剤 (普)(A)	1kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	湛水散 布	イソチアニル3回以内(但し、移植時ま での処理は1回以内、本田では2回以内)	-
抵抗性誘 導	P	オリゼメート粒剤 (普)(B)	3~4kg/10a	葉いもちには初発の10日前~ 初発時穂いもちには出穂3~4 週間前(但し、収穫14日前まで)	2回以内	散布	プロベナゾール2回以内(但し、育苗箱へ の処理及び側条施用は合計1回以内)	砂質土など漏水の多 い水田や養魚田では 使用しない。
メニン生合 成阻害	16.1	コラトップ粒剤5 (普)(A)	3~4kg/10a	・葉いもちに対しては初発10日 前~初発時 ・穂いもちに対しては出穂30日 前~5日前まで	2回以内	散布	ピロキロン3回以内(但し、育苗箱散布は1 回以内、本田では2回以内)	・火山灰土壌では効果 が不安定である。
メニン生合 成阻害,-	16.1 7	コラトップリンパー 粒剤(普)(A,B)	3~4kg/10a	出穂30日前~5日前まで	2回以内	散布	ピロキロン3回以内(但し、育苗箱散布は1 回以内、本田では2回以内)、フラメビル2 回以内(但し、育苗箱散布は1回以内)	-
一,酸アミ ド	6 7	フジワンモンカット 粒剤(普)(B,B)	3~4kg/10a	出穂30~10日前(但し、収穫30 日前まで)	2回以内	湛水散 布	イソプロチオラン3回以内(移植前は1回 以内、本田では2回以内)、フルトラニル3 回以内(但し、小包装投入は1回以内)	-
-	6	フジワン粒剤 (普)(B)	3~5kg/10a	葉いもちに対しては初発7~10 日前、穂いもちに対しては出穂 10~30日前(但し、収穫30日前 まで)	2回以内	湛水散 布	イソプロチオラン3回以内(但し、移植前は 1回以内、本田では2回以内)	本剤はトピロウカ にも適用がある。

## イネいもち病の発生と防除対策

### 1 発生状況

- (1) 8 月 6 日～8 日の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率 33.9% (平成 19.8%)、発病株率 14.8% (平成 5.0%)、発病度 3.8 (平成 1.3) で平年に比べやや多かった。
- (2) 穂いもちの伝染源となる上位 2 葉が発病したほ場率 14.0% (平成 7.6%) で、平年に比べ上位葉における発病が多かった。
- (3) 一部のほ場では、いもち病の多発生が認められた。

### 2 今後の予想

- (1) 対象地域 県内全域
- (2) 発生量 **やや多**

### 3 防除対策

- (1) 穂いもちの防除適期は、粉剤、水和剤では穂ばらみ後期と穂揃期の 2 回である。
- (2) 粒剤は出穂前に施用するが、薬剤によって施用時期が異なるので注意する。
- (3) 出穂後、曇雨天が続く場合には、傾穂期前後にも防除を行う。

### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 防除にあたっては、「平成 25 年山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準」を参照し、使用時期等の農薬使用基準を遵守する(山口県病害虫防除所ホームページ参照)
- (2) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないように注意する。

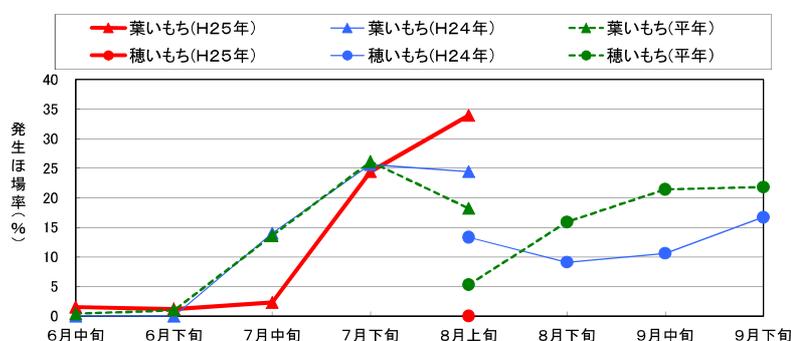


図 イネいもち病の発生ほ場率



葉いもちの発病状況 (左) と進展型病斑 (右)  
(進展型病斑では孢子形成数が多い)

穂いもちの発生状況